

日本労働年鑑 第26集 1954年版
The Labour Year Book of Japan 1954

第一部 労働者状態

第一編 労働人口の構成

第三章 主要労働人口の構成

第二節 鉱山労働者

「昭和二五年、本邦鉱業の趨勢」(通商産業省編、一九五二年一二月刊)による、一九五〇年末現在の鉱山労働者の鉱種別数は第25表のごとくである。炭鉱労働者三六万四二四〇人は鉱山労働者総数中の七四・四%に当り圧倒的に多い。次いで金属鉱山六万〇〇八五(一二・三%)、非金属鉱山三万〇五二七(六・二%)である。

次に、「昭和二七年、石炭統計年報」(通商産業省編、一九五三年四月刊)によって一九五二年末現在の炭鉱常用労働者数についてみると、それは三七万九〇一八人である。五一年末現在敬三七万〇六二四人に比べれば、この間における増加は雇入一二万一一〇七、転入九万五四三〇、計二一萬六五三七に対し、減少は解雇一一万二七〇三、転出九万五四三〇、計二〇万八一三三で、差し引き八四〇四人の増加となる。また、常用労働者中の実働労働者三六万五五九五人を坑内外別にみると、坑内夫比率六四・五%は戦後の最高を示す。

炭鉱労働者の職種別数は第26表、その県別数は第27表、請負夫・臨時夫数は第28表の通りである。

日本労働年鑑 第26集 1954年版

発行 1953年11月20日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

****年**月**日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1954年版(第26集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)